

平成27年度PDCAサイクルづくり支援事業C調査集計結果及び分析報告

教学指導課

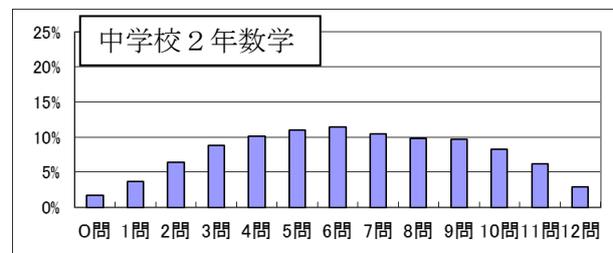
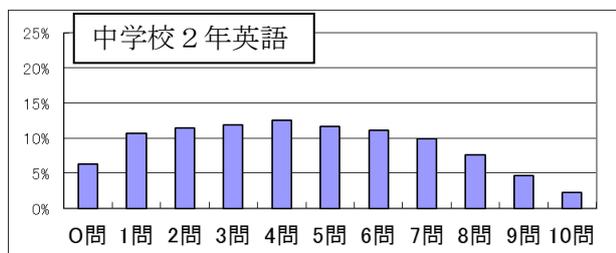
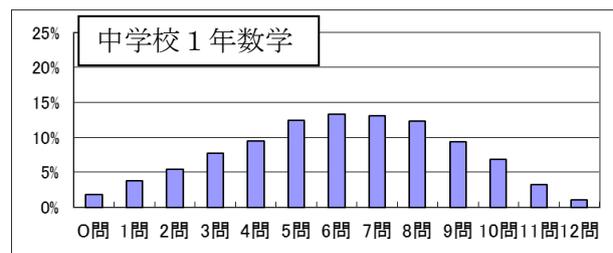
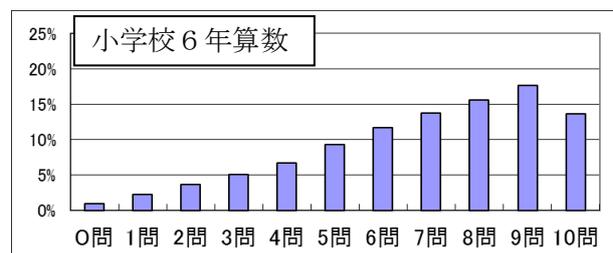
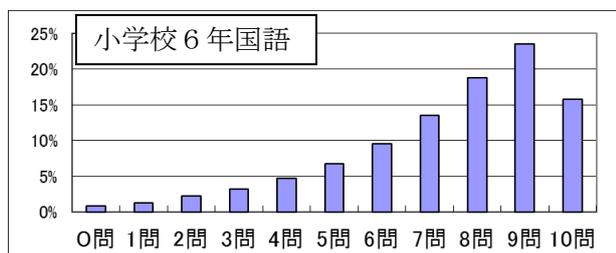
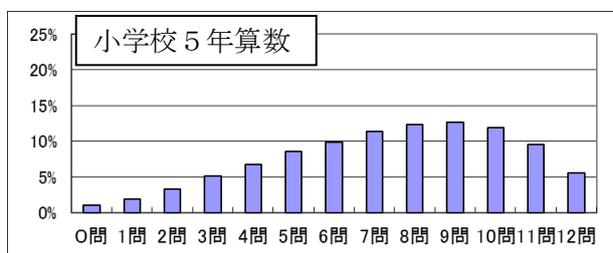
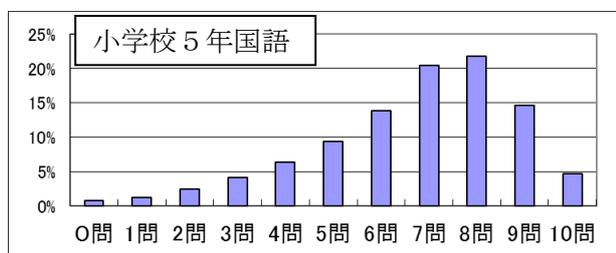
1 調査教科及び調査した児童生徒数

(上段；参加人数，下段；参加校数)

	国語	算数・数学	英語
小学校5年	15,343人(81.1%) 314校(85.6%)	15,333人(81.0%) 314校(85.6%)	
小学校6年	8,807人(45.1%) 190校(51.8%)	8,819人(45.3%) 190校(51.8%)	
中学校1年		14,162人(72.8%) 157校(84.9%)	
中学校2年	14,586人(73.1%) 159校(85.9%)	14,763人(74.0%) 162校(87.6%)	14,502人(72.7%) 160校(86.5%)

(参考；全県 小5:18,920人，小6:19,522人，中1:19,466人，中2:19,958人，小学校367校，中学校185校)

2 正答数の分布グラフ



国語については、小学校、中学校ともに右よりの分布となった。算数数学については、小学校5・6年は右よりの分布となったが、中学校1・2年では左右対称に近い分布となった。英語（中学校2年）については、左よりの分布となった。各校においては、自校の分布と比較して傾向をつかみ、補充指導等により全ての生徒に基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けるようにしたい。さらに、伸びる力を一層伸ばすことを視点とした授業改善を進めていくことが必要である。

3 正答数の分布

(単位 上段；人，下段；%)

	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問
小5 国語	120	186	373	634	966	1427	2112	3092	3305	2201	710		
	0.8	1.2	2.4	4.2	6.4	9.4	13.9	20.4	21.8	14.7	4.7		
小5 算数	157	286	506	788	1031	1300	1484	1725	1869	1912	1801	1432	827
	1.1	1.9	3.3	5.2	6.8	8.6	9.8	11.4	12.4	12.6	11.9	9.5	5.6
小6 国語	71	110	195	277	406	580	825	1164	1621	2029	1358		
	0.8	1.3	2.2	3.2	4.7	6.7	9.5	13.5	18.7	23.5	15.8		
小6 算数	78	192	315	438	586	804	1013	1192	1342	1526	1163		
	0.9	2.2	3.7	5.0	6.7	9.3	11.7	13.8	15.6	17.7	13.6		
中1 数学	251	533	767	1071	1320	1746	1878	1841	1725	1325	963	457	154
	1.8	3.8	5.5	7.7	9.4	12.4	13.4	13.1	12.3	9.4	6.8	3.2	1.1
中2 国語	57	72	204	384	750	1260	2109	2952	3268	2556	829		
	0.4	0.5	1.4	2.6	5.2	8.7	14.6	20.5	22.7	17.7	5.7		
中2 数学	243	546	936	1289	1465	1607	1674	1538	1437	1404	1197	876	408
	1.7	3.7	6.4	8.8	10.1	11.0	11.5	10.5	9.8	9.7	8.3	6.2	2.9
中2 英語	903	1527	1651	1718	1807	1677	1587	1426	1081	668	312		
	6.3	10.7	11.5	11.9	12.6	11.7	11.1	9.9	7.6	4.7	2.3		

4 各問の正答率 (単位%)

○知識に関する問題 ◇活用に関する問題

小5 国語	1一 A○	1一 B○	1二 小山◇	1二 高山◇	2一 ◇	2二 目次○	2二 さし紙○	3一 ○	3二 ◇	3三 ◇		
	82.5	80.5	77.7	74.6	39.0	82.8	84.5	87.3	21.9	40.6		
小5 算数	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【1】 (3)○	【1】 (4)○	【2】 ○	【3】 (1)○	【3】 (2)○	【4】 ○	【5】 (1)○	【5】 (2)○	【6】 ◇	【7】 ◇
	59.5	76.2	63.0	78.2	65.4	40.0	62.7	80.1	46.4	68.8	56.3	39.5
小6 国語	1一 ○	1二 (1)○	1二 (2)○	1二 (2)○	1二 (3)◇	1二 (4)◇	2一 ア○	2一イ ○	2二 ◇	2三 ◇		
	66.1	70.7	92.5	80.6	45.3	75.0	77.9	89.2	80.0	61.5		
小6 算数	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 (1)○	【7】 (2)◇	【8】 ◇	【9】 ◇		
	53.8	80.8	59.9	72.4	67.1	78.6	81.3	65.1	75.0	50.1		
中1 数学	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 (1)◇	【7】 (2)◇	【8】 (1)◇	【8】 (2)◇	【8】 (3)◇
	73.3	74.5	12.0	16.8	82.7	68.2	39.0	89.0	30.9	36.1	60.7	26.5
中2 国語	1一 ○	1二 ◇	1三 ◇	2一 ○	2二 ア○	2二イ ○	2三 ◇	3一 ○	3二 ○	3三 ◇		
	73.6	76.0	53.6	89.8	86.2	89.0	51.0	89.8	75.5	19.8		
中2 数学	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ○	【9】 (1)◇	【9】 (2)◇	【10】 (1)◇	【10】 (2)◇
	21.0	57.2	75.6	46.4	79.1	64.9	33.4	63.2	53.0	54.0	35.1	48.0
中2 英語	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ◇	【9】 ◇	【10】 ◇		
	70.0	53.5	41.1	48.2	56.1	27.5	22.5	63.2	24.3	33.7		

5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率 (単位%)

	小5国語	小6国語	中2国語	小5算数	小6算数	中1数学	中2数学	中2英語
知識に関する問題	83.5	79.5	84.0	64.0	70.6	52.4	55.1	45.6
活用に関する問題	50.8	65.5	50.1	47.9	63.4	48.6	47.5	40.4

いずれの学年，教科においても，知識に関する問題より，活用に関する問題の正答率の方が低くなっている。特に，記述式の問題の正答率が低い傾向が見られる。後ほど示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして，確実に授業改善を進めていく必要がある。

知識に関する問題では，一部で定着が不十分なものが見られる。C調査問題は，今年度の学習内容なので，補充・補完指導を速やかに行い，児童生徒が確実に理解できるようにすることが必要である。確かな理解を深める授業を行っていくとともに，クリア問題，レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して，さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

6 C調査結果から見えた課題と指導改善のポイント

C調査結果で見えた課題

- ・用語や公式などについての意味を理解すること。
- ・根拠や立場を明確にして，自分の考えを書いたり説明したりすること。

指導改善のポイント

1 用語，単位，公式，文型などについては，用い方や例文を示すだけでなく，言葉や図を関連付けて説明したり，目的や意図に応じて構成したりする活動を取り入れましょう。

- ・用語や公式を複数の場面で実際に用いる，具体的な事柄を当てはめて検討する，複数の例文を書いて比較する，共通点や相違点を整理し確認するなどの活動を行うことで，意味の理解を深めるようにしましょう。（小5算【3】(1)，小6算【1】，中1数【2】，中2数【7】，中2英【6】など。）

2 問題解決において，分かったことを整理してまとめたり，文章と図等を関連付けて自分の考えを書いたり，判断の理由を言葉や図等を用いて説明したりする活動を取り入れましょう。

- ・付箋等を用いて情報や登場人物の心情を整理する，問題文にある情報を図や表や式などに整理する，目的や意図に応じて文章を要約する，条件に合うような表現かどうか振り返るなどの活動を行うことで，根拠や立場を明確にして自分の考えを書いたり説明したりすることができるようになります。（小5国【2】一，小5国【3】二，小6国【2】三，中2国【3】三，小5算【5】，小6算【6】，中1数【3】，中2英【9】，中2英【10】など。）

7 各教科・学年において課題となった問題と指導改善の方向

(1) 中学校 1 年数学

【2】 正答率 12.0%

① 課題

小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について、理解すること

- ・負の数と1未満の小数の積が、もとの負の数より大きくなることを理解できていない生徒が約40%いる。

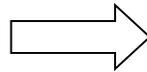
② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成27年度全国学力・学習状況調査A $\boxed{1}$ (3) (a が負の数ではなく正の数の場合) 76.2%

③ 指導改善の方向

- ・数直線や図などを用いたり、具体的な場合に当てはめたりして数量の関係をとらえられるようにして、乗法と積の大きさ、除法と商の大きさの関係を調べる活動を取り入れることが大切である。
- ・問題を解決する際に、有効な手だての一つとして、簡単な場合に置き換えて考えることがある。例えば、本問題の式で、簡単に計算ができるように、 a に -8 を当てはめて乗数と積、除数と商の大きさの関係を調べることができる。文字式の指導の場面でも、このように簡単な場合に置き換えて考える活動を通して、生徒が問題を解決する手がかりをつかめるようにすることが大切である。

補充・補完指導をしましょう



レビュー問題 中1・①-2-2 の活用

【3】 正答率 16.8%

① 課題

数量の関係を文字式に表すこと

- ・「倍」という表現が含まれることから、 $a \times 3/4$ と解答した生徒が約55%いる。

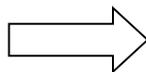
② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成27年度全国学力・学習状況調査A $\boxed{2}$ (2) 23.6%

③ 指導改善の方向

- ・事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるようにするために、関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、文字式に表す活動を取り入れることが大切である。
- ・今回の問題を用いて授業を行う際には、青いテープの長さは赤いテープの長さを基準として示されていることを確認し、青いテープの長さを具体的な数で表したり、2本のテープの長さを線分図で表したりして、青いテープと赤いテープの関係を言葉や文字を使った式に表す活動を取り入れることが大切である。

補充・補完指導をしましょう



クリア問題 中1・9月② の活用

【7】(2) 正答率 30.9%

① 課題

事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること

・説明すべき事柄の根拠と結論のどちらか一方のみを書いた生徒が約20%いる。解答類型9「上記以外の解答」となった生徒が約40%いる。

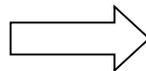
② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成27年度全国学力・学習状況調査B¹(3) 11.7%
- ・平成26年度C調査 35.4%

③ 指導改善の方向

- ・数や図形について成り立ちそうな事柄を予想し、予想した事柄を正確に表現し文字式などを活用して事柄が成り立つ理由を説明したり、反例をあげて事柄が成り立たないことを示したりする活動を取り入れることが大切である。
- ・文字式を用いた説明や図形の論証の学習場面に限らず、数学科の学習全般にわたって、事柄が成り立つ理由を説明する学習場面で、説明すべきことがらの根拠と、それによって説明される結論の両方を述べる機会を意図的に設定することが大切である。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題 中1・6月②, 10月②, 11月②, 2月② の活用

【8】(1) 正答率 36.1% (3) 正答率 26.5%

① 課題

問題解決の方法や手順、事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて的確に説明すること
解が問題の答えとして条件を満たしているかを問題文と照らし合わせて判断すること

・条件を変えた場合の解が適切かどうかを判断し説明する問いに対して無解答の生徒が約35%いる。

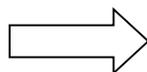
② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成22年度全国学力・学習状況調査³(2) 26.7%
- ・平成26年度C調査【8】(1)35.4% (3)25.3%

③ 指導改善の方向

- ・問題解決の場面で方程式を利用する場合、方程式の解が問題の答えとして適切であるかどうか、調べる必要があるのはなぜか、それをどのように調べればよいかを理解させることが大切である。
- ・方程式をつくるときに用いられていない問題の条件(家から駅までの道のり2km)に着目することによって、解が問題の答えとして適切なものであるかどうかを調べる必要性を理解し、解を問題の答えとするとその答えが条件を満たしているかどうかを問題文と照らし合わせて判断できるようにすることが大切である。また、問題の条件を変えると方程式の解が問題の答えとして適切でない場合があることを取り上げることが有効である。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題 中1・10月①の活用

(2) 中学校2年国語

1三 正答率 53.6%

①課題

資料の提示の仕方を工夫し，活用して話すこと

- 理由は書けているが，資料の提示の仕方と結び付けて書けない生徒が約20%いる。また，無解答の生徒が約5%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

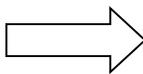
- 平成26年度全国学力・学習状況調査A[1]一 78.9%
- 平成27年度P調査 39.1%

③指導改善の方向

- 報告会などでスピーチをする場合には，目的や相手，時間などの条件に応じて，情報を整理して内容を組み立てる必要がある。その際，中心となる情報に加えて，それを補う情報を資料として準備しておくことも効果的である。生徒が行うスピーチにおいても，実物を示すなど，聞き手の理解を促すための資料を準備して活用することが重要である。

- 授業では，次のような指導が大切である。
 - ◇一度作成した資料やその使い方について，リハーサルなどを通して相互に助言する中で修正を加えていくように指導する。
 - ◇その際，なぜそのように修正するのかという理由を説明するように指導する。

補充・補完指導をしましょう



クリア問題・中2・4月 の活用

2三 正答率 51.0%

①課題

メモしたことから，手紙の主文を書くこと

- メモの内容に基づいて書いているが，相手に応じた言葉遣いができていない生徒が約10%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

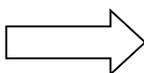
- 平成19年度全国学力・学習状況調査A[2]三 55.3%
- 平成24年度全国学力・学習状況調査A[2]二 85.6%

③指導改善の方向

- 小学校においても手紙の基本的な形式については指導している。中学校ではそのことを踏まえて，様々な機会を捉えて手紙を書く活動を設定し，頭語・結語，時候の挨拶などが果たす役割を考えながら書くように指導することが大切である。
- 職場体験でお世話になった方にお礼の手紙を書いたり，他校の生徒と手紙を交換したりするなどの学習活動を取り入れて指導することが有効である。

- 授業では，書式について指導するだけでなく，相手の名は上に書き，自分の名は下に書いて尊敬の意を表す形式がもつ「意味」や「考え方」も併せて考えさせることが重要である。

補充・補完指導をしましょう



クリア問題・中2・12月 の活用

3 正答率 19.8%

①課題

登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること

- ・文章中の登場人物の行動から読み取った心情を、本文を基に書けない生徒が約 15%いる。また、無解答の生徒が約 10%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査 A **3** 79.6% ・平成 27 年度 P 調査 12.1%

③指導改善の方向

- ・文学的文章を読む際には、登場人物の言動に注目して読み、その意味や心情を叙述に即して考えることが大切である。

- ・授業では、次のような指導が大切である。
 - ◇音読や朗読などの学習を取り入れる。
 - ◇音読や朗読を通して、作品の語り方の特徴や登場人物の心情などについて感想をもち、交流しながら、内容の理解を深めていくことができるように指導する。

- ・文学的文章を読む際には、内容だけでなく、豊かな表現を味わいながら読むことが大切である。表現の工夫は、

- 心情や情景の描写等、部分的な叙述に関わるもの
- 文章全体の構成や展開に関わるもの

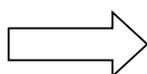
がある。

- ・授業ではこれらを味わうために、
 - ◇細部の表現に注意して読むこと
 - ◇文章全体を俯瞰して読むことを、意図的に取り入れることが必要である。
- ・授業で、部分的な表現を味わう際には、第 2 学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」(ア)との関連を図り、話し言葉と書き言葉との違いや敬語の使い方などに着目することも有効である。

- ・文学的文章に使われる語句は、文章の全体の雰囲気を作ったり、場面や登場人物の心情を印象付けたりするなどの役割をもっている。また、近代の作品は、現代の日常生活ではなじみの薄い語句や言い回しが使われることもあるので、前後の文章のつながりや文脈の中における意味や効果を考えることが大切である。

- ・授業では、次のような指導が大切である。
 - ◇辞書的な意味と併せて、その文脈の中における意味や効果を考えていくこと。
 - ◇前後の文章のつながりから推測したり、辞書を引いてたしかめたりすること。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題・中・2・12月 の活用

(3) 中学校2年数学

【1】 正答率 21.0%

①課題

文字の値が整数の時に、式の値について考察すること

- ・ a を整数とするとき、式 $3a+1$ で表すことのできる数を選ぶ問題で、「 $-2, 64$ 」と解答した生徒 ($a=0$ の時を入れていない) が約 15% いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 27 年度 P 調査 20.1% ・ 平成 24 年度全国学力・学習状況調査 A² (3) 36.7%

③指導改善の方向

- ・ 文字のとり得る値の範囲を基に式の値を調べたり、式の値がとる範囲と文字の値との関係を検討したりして、数の範囲に基づいて式の値について考察することが大切である。例えば、1 は、 $3 \times 0 + 1$ というように $3 \times (\text{整数}) + 1$ の形で表すことができるので、 $3a+1$ で表すことのできる数であることを確かめたり、 $3a$ が 3 の倍数を表すことから、 $3a+1$ は、「3 の倍数 + 1」を表す式であることを確かめたりする場面を設定することが考えられる。

補充・補完指導をしましょう

レビュー問題 中1・①-2-6 の活用

レビュー問題 中1・②-1-3 の活用

【4】 正答率 46.4%

①課題

事象の根拠となる数学的な性質を見いだすこと

- ・ 2 枚の三角定規を使った平行線の作図法の根拠を選ぶ問題で、「1 つの直線に平行な 2 直線は平行である」、「2 直線に 1 つの直線が交わる時、錯角が等しければ、2 直線は平行である」を選んだ生徒がそれぞれ約 20% ずついる。(正解「2 直線に 1 つの直線が交わる時、同位角が等しければ、2 直線は平行である」)

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 26 年度 C 調査 52.3% ・ 平成 25 年度 C 調査 46.5%

③指導改善の方向

- ・ 図形の性質に着目して、作図の方法を見直すことができるようにすることが大切である。ここでは、三角定規の 1 つの角に着目し、動かす前と後の角の位置が 2 直線の同位角であることを見いだせるようにし、「平行線になるための条件」が用いられていることを理解できるようにしたい。また、「平行線の性質」と「平行線になるための条件」を適切に用いることができるようにすることも大切である。図形の性質を考察する際には、図形について成り立つ性質と図形になるための条件を適切に用いることができるようにしたい。

補充・補完指導をしましょう

レビュー問題 中2・④-1-1 の活用

レビュー問題 中1・⑤-2-2 の活用

【7】 正答率 33.4%

①課題

独立変数と従属変数の関係を的確にとらえ、その関係を「～は～の関数である」と表現すること

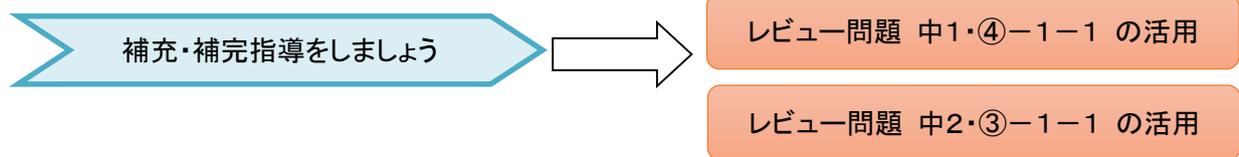
- ・独立変数と従属変数の関係を逆にとらえた生徒が約 30%いる。また、無回答の生徒が約 20%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 27 年度 P 調査 31.5% ・平成 26 年度 C 調査 31.1%
- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査 A^[9] 37.9%

③指導改善の方向

- ・独立変数 (○○) と従属変数 (△△) との違いを意識して「△△は○○の関数である」という形で表現できるように指導することが大切である。2つの変数の関係を「y は x に比例する」「y は x の一次関数である」等といった形で表現する学習において、「y は x の関数である」という表現を取り上げ、関数の1つとして「比例」「反比例」等があることを確認する場を大切にしたい。
- ・各学年の関数学習において、いくつかの事例を示し、「Aを決めると、それにもなってBがただ1つ決まる」ことを「BはAの関数である」という形で表現する活動を設定したい。



【10】 (1) 正答率 35.1%

① 課題

グラフの様子を的確にとらえ、式に表すこと

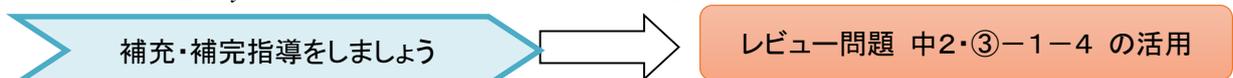
- ・H26C 調査では無回答の生徒が約 60%いたが、約 15%に減少。正答率も約 15 ポイント上昇している。

② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 26 年度 C 調査 20.9%
- ・平成 24 年度全国学力・学習状況調査 A^[11](2) (グラフから傾きと切片の値を読みとり選択) 72.1%

③ 指導改善の方向

- ・日常的な生活場面における 2つの変数について、示されたグラフから式を読み取る学習の際には、座標軸の間隔に留意し、xの増加量やyの増加量を正しく読み取ることができるように指導することが大切である。
- ・生徒は、マス目に頼って傾きを読み取ることに慣れていないかと考えられる。グラフの読み取りを行う練習問題などにおいて、意図的に座標図の補助線を無くしたり、1目盛りの幅を x と y で変えたりするなど、問題設定を工夫したい。
- ・文字で書かれた情報を基に式を求める場面で、手書きのグラフを描く場面を設定し、マス目に頼らず、xの増加量やyの増加量を求められるようにする。



(4) 中学校2年英語

【6】 正答率 27.5%

①課題

to 不定詞の用法について正しく理解すること

- ・ many things to see と同じ用法として, I went to Tokyo to see my friends. を誤って選んだ生徒が約55%いる。他の選択肢がいずれも to go であったことから, 単純に同じ語であるという理由で to see を選んだ生徒が多くいると思われる。

②指導改善の方向

◇to 不定詞の異なる用法が混在する英文を書く言語活動を位置付け, 同じ形で様々な内容が表現できることに着目させる。

1 「冬休み」を題材にしたモデル文を提示し, to 不定詞の異なる用法に着目させる。

〈モデル文〉 Last winter I went to Kyoto () see my grandmother.

Kyoto has many places () see. There were many foreign people there.

I hope () see many foreign people and speak English with them.

はじめに () に入る語を考えさせる。続いて, 下線部はどのような意味になるかをペアやグループで考え合う場を設定することで, 同じ to see であっても多様な働きをすることを実感させる。

2 モデル文を参考に, 自分の冬休みについて書かせる場を設定する。

to 不定詞は教科書本文の中で繰り返し出させながら定着を図るべき内容である。そのためには, 2年生教科書本文の中から, これから学ぶ箇所も含め to 不定詞すべてに線を引き, その下に「~するために」などを書いて確かめる機会をとるとよい。

【7】 正答率 22.5%

①課題

英語で書かれた本文の内容を適切に読み取ることができ, 別の表現で言い換えているものが何を指しているのかを, 本文中から選択すること

- ・ a short word という語句の持つ意味を正しくとらえられず, smile と答えた生徒が約5%いる (A)。それ以外の答え方をした約50%の生徒の多くは, 本文の概要がとらえられないまま, with の後に入りそうな語(family, friends など)を適当に選んでしまったものと思われる (B)。

②指導改善の方向

◇まとまった分量の英文を読むとき, 次の2種類の読み方を指導する。

◎Scanning (中心となる事柄など大切な部分を捉えて読む) を使った読ませ方

- ・ 代名詞や指示語が何を指しているのかに注目させるなど, 大切な語句や表現を手がかりにして読み取らせていく。←上記①Aに対して。

◎Skimming (大まかな流れをつかみながら読む) を使った読ませ方

- ・ 5W1Hを中心に読み取っていけるように, 登場人物などのキーワードに○を付けたり, 時系列に出来事を表にまとめたりなどして読み取らせていく。←上記①Bに対して。

【9】 正答率 24.3%

①課題

問答の意味を理解し、条件に合うように英語を使って適切に応じ、書くこと

- ・対話の流れを理解し、自らの考えを1文の英語で表現しようとしているが、文法的に間違いのある答えを書いている生徒が約20%いる。また、無解答の生徒が、約40%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成27年度P調査 45.3%
- ・平成26年度C調査 35.7%

③指導改善の方向

- ・考えや気持ちを伝え合う言語活動では、相手の意向を正しく理解し、状況に合った適切な表現を自ら考えて応じられるようにする。

【話す・聞く場面で】

- ・身近で具体的な場面を設定
- ・その場面にふさわしい表現の例示

たとえば

- ・帯活動で、既習表現を参考にして、ペアで考えや気持ちを伝え合う1分間フリートークを行う。

【書く・読む場面で】

- ・互いの表現を振り返る場面を設定

たとえば

- ・フリートーク中の質問や応答をノートに書き、うまく表現できなかったことをペアで考えながら英文に表し、考えた表現を使ってもう一度1分間フリートークを行う。

【10】 正答率 33.7%

①課題

身近な場面について書く内容を構想し、正しく英語2文で書くこと

- ・文法的な間違いがあるが、内容的には理解できる2文を書いており、意欲的に書こうとしているが、正答の条件に満たない生徒が約25%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成27年度P調査 43.4%
- ・平成26年度C調査 28.5%

③指導改善の方向

- ・「まとまりのある文を正しく書く」ために、段階を踏んで指導する。

◇「まとまりある文を正しく書く」ための段階を踏んだ指導（例）

- ①身近な事柄や自分の考え、気持ちなどを表すために必要な文法事項や表現等を教科書で学習したあと、生徒が書く必要感がもてる場を設定した上で、書く活動を位置付ける。
- ②書く見通しをもたせるために、教科書本文をもとに書く型を示したり、教師のモデルから活用できる表現に気付かせたりするなどの指導の工夫をする。
- ③文の完成後は、観点を明確にして生徒同士で読み合ったり、教師が添削をしたりして、生徒が英文の内容や構成、正しさに目を向けるような場面を位置付ける。
- ④英文を正しく書く力の定着を図る。
 - ・完成した英文を読んだり発表したりする活動を位置付け、文の語順や英文同士のつながりなどに着目できるよう指導する。
 - ・家庭学習は、授業で学習した内容を基にした課題にする。